

新しい教科書の「問いの構造」

導入ページ

本文ページ

まとめ・ふり返りページ

新しい教科書では、**問いを構造化**することで**内容のまとめりでの授業**がしやすくなっています。各時間の「学習課題」を積み重ねて「節の問い」や「編(章)の問い」を解決する構造になっています。教科書の問いに沿って授業を進めていくことで、**主体的・対話的で深い学びを実現**することができます。

単元を貫く問いを立てる

導入ページで、単元を通して追究していく「単元を貫く問い」(「編(章)の問い」や「節の問い」)を立てます。



P.154-157

学習課題を追究する

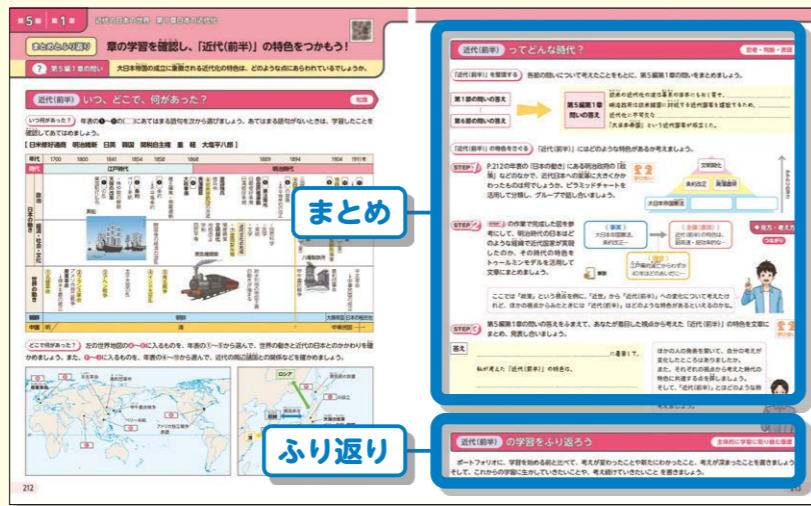
導入ページで立てた問いの解決に向けて、本文ページに設定した各時間の「学習課題」と、それに対応した「確認」「表現」の問いに答えます。



P.196-197

単元を貫く問いを解決し、ふり返る

学んだことをまとめ、「節の問い」について考えたことを手がかりに「編(章)の問い」を解決します。最後に単元の学習をふり返り、次の単元へ進みます。



P.212-213

第5編第1章 日本の近代化

第5編第1章の問い

大日本帝国の成立に象徴される近代化の特色は、どのような点にあらわれているでしょうか。

第1節の問い

第2節の問い

第3節の問い

注目! 「単元を貫く問い」で、授業をデザインする
内容や時間のまとめりにより構成された授業をデザインすることで、主体的・対話的で深い学びを実現できます。

第5節 日清・日露の戦争と東アジアの動き

第5節の問い 条約改正、日清・日露戦争は、日本にどのような影響をあたえたのでしょうか。

1 列強の動向とアジア

学習課題 なぜ、日本はこの時期に条約改正を実現することができたのでしょうか。

確認 日本にとって不平等条約の改正が必要だった理由について、確認しましょう。

表現 憲法の制定など近代国家としての制度の整備や当時の世界情勢が、条約改正とどのように結びついたかを説明しましょう。

2 朝鮮をめぐる対立

学習課題 日清戦争はなぜ起こり、その結果、日本はどのように変わっていったのでしょうか。

確認 日清戦争の結果は、日本・清・朝鮮・ロシアにどのような影響をあたえたのかを整理しましょう。

表現 日清戦争の結果、どのようなことが起こったか、国際関係と国内の動きから説明しましょう。

3 朝鮮・満州をめぐる日本とロシアの対立

学習課題 日露戦争は、なぜ起こり、その結果は、日本にどのような影響をあたえたのでしょうか。

確認 日露戦争のきっかけについて、日本とロシアの動きを確認しましょう。

表現 日露戦争の結果、どのような影響があったのか、対外関係と国内に着目して説明しましょう。

第5節の問いに答えよう 日清・日露戦争前後の日本の国際的な地位の変化や動きに着目しましょう。

「近代(前半)」を整理する

第1節の問いの答え
:
第6節の問いの答え

第5編第1章の問い
大日本帝国の成立に象徴される近代化の特色は、どのような点にあらわれているでしょうか。

「近代(前半)」の特色をさぐる

「近代(前半)」にはどのような特色があるか考えましょう。

注目! 時代の特色を考察する
「編(章)の問い」で答えたことを踏まえて、学習してきた時代の特色を、視点を定めて考察する活動をします。

近代(前半)の学習をふり返ろう

主体的に学習に取り組む態度

ポートフォリオに、学習を始める前と比べて、考えが変わったことや新たにわかったこと、考えが深まったことを書きましょう。そして、これからの学習や生活に生かしていきたいことや、考え続けていきたいことを書きましょう。

問いを立て、学習を見通す導入ページ

導入ページでは、各時代の人々や社会の様子を示す資料を生徒が主体的に読み取り、それをもとに話し合う協働的な学びを通して、「編(章)の問い」を立てる活動を提案しています。また、立てた問いの答えを予想することをうながして、その後の学習の見通しをもつことができるようになっています。

第2～6編 各時代の学習

導入ページ

本文ページ

まとめ・ふり返りページ

第5編 第1章 近代の日本と世界 日本の近代化

学習のはじめに 江戸と東京を比べよう

近世 江戸時代の江戸のようす

近代 明治時代の東京のようす

気づいたことを出し合おう

「近代(前半)」という時代のイメージをつかもう

「近代(前半)」という時代のイメージを書き出しましょう。

江戸時代は木造の家が... 明治時代では、洋物の家が多くなりました。

前代に比べて、どのようにして西洋風のものが増え、西洋文化の影響を受けた時代ですか。

「近代(前半)」は、近代化を始めた日本が、西洋文化の影響を受けた時代です。次のページの年表で、主なできごとを確認しましょう。

年表と地図を読み取る

第5編第1章「日本の近代化」の動き

気づいたことを出し合おう

年表から「近代(前半)」という時代を見通そう

日本と世界のつながりを確認しよう

年表の「主なできごと」の欄を見ると、「近代(前半)」の日本は、世界の多くの国とつながり、さまざまな影響を受けてきたことがわかります。

地図を読み取り、話し合ってみよう。

P.110の地図と比べて、アジアやアメリカ、オセアニアはどのように変わったか。

「近代(前半)」の日本と世界は、どのようにつながっていたか。

年表の「主なできごと」の欄を見ると、「近代(前半)」の日本は、世界の多くの国とつながり、さまざまな影響を受けてきたことがわかります。

第5編第1章の問いを立てよう

第5編第1章の問い 大日本帝国の成立に象徴される近代化の特色は、どのような点にあらわれているでしょうか。

第1部の問い 議院制民主主義や資本主義、工業化は、どのような近代社会をつくったのでしょうか。

第2部の問い なぜ、約260年間続いた江戸幕府がたつたことになったのでしょうか。

第3部の問い 明治維新の経緯によって、社会はどのように変化したのでしょうか。

第4部の問い 日本における立憲制はどのように始まり、展開されたのでしょうか。

第5部の問い 条約改正、日清・日露戦争は、日本にどのような影響をもたらしたのでしょうか。

第6部の問い 産業の発展によって、社会や文化はどのように変わったのでしょうか。

学習の見通しをもとう

第5編第1章の問いに対する疑問や答えの予想をポートフォリオに書きこみ、これからの学習を見通します。

1 どんな学習をするのかな？

小学校の既習内容を確認するとともに、この時代の学習で何ができるようにになればよいかを説明します。

2 気づいたことを出し合おう

前後の時代を代表する資料を比較して、特徴やちがいなどを読み取り、これから学ぶ時代のイメージをつかみます。

3 気づいたことを出し合おう

年表と世界地図を読み取り、時代を時間軸で概観したり、日本と世界とのつながりを空間軸で確認したりします。

4 第○編(章)の問いを立てよう

②、③の活動を通して出てきた意見や疑問を踏まえて、編(章)や節で追究していく問いを立てます。

5 学習の見通しをもとう

編(章)の問いに対する疑問や答えの予想をポートフォリオに書きこみ、これからの学習を見通します。

生徒は原始・古代～現代までの各時代でこうした学習を繰り返していきます。

資料の活用や、話し合いなどの活動から、深く学んでいけそうですね。



注目 見方・考え方を働かせる

「トライ」で資料を読み取る一連の活動では、見方・考え方を働かせた着目点を示して、生徒の活動を支援します。



注目 ポートフォリオ

学習の見通しとふり返りの活動に役立つポートフォリオのデータを教科書QRコンテンツとしてご用意しています。



指導と評価の一体化

主体的に学習に取り組む態度

⑤の活動を行い、単元の学習後に改めて自分の考えを書きこむことで、生徒が学習の見通しを立て、学習後に自分の考えの変容をふり返ったり、教師の授業改善につなげたりできるようにしました。主体的に学習に取り組む態度の評価もできます。

授業や生徒の思考の流れを重視した構成

本文は原則1授業時間を見開き2ページとし、この1時間で何を学ぶのか、どのようなことに着目して学習を進めるのかを「学習課題」「見方・考え方」で明確に示しました。また、右ページの側注欄には学習課題に対応した「確認」「表現」コーナーを設け、「編(章)の問い」や「節の問い」に答えるための手がかりとなるように工夫しています。

導入ページ

本文ページ

まとめ・ふり返りページ

1 導入資料

本文ページの導入になる資料と、それに関する問いかけを設けています。

関心と意欲を引き出す

2

学習課題

本文ページで何を学んでいくのかを示しています。この課題を考えながら、学習を進めていきます。

学習に見通しをもたせる

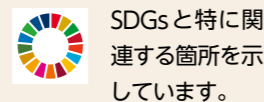


見方・考え方

学習課題の解決に向けて手がかりになる主な「見方・考え方」の例を示しています。



対話的な活動など協働的な学びに関連した箇所を示しています。



SDGsと特に関連する箇所を示しています。

二次元コード

読み込むことでその見開きにある教科書QRコンテンツを参照することができます。見開きタイトルとセットで示しています。→本冊子P.16参照

資料活用

資料を用いた活動を示すことで、必要な情報の読み取りなどの技能を高めることができます。→本冊子P.16参照

タブレットマーク

このマークのついた教材は、二次元コードを読み込んだ先のWebページにある教科書QRコンテンツで、学習を深めることができます。→本冊子P.16参照

小年表

この見開きのできごとが、いつ、どのような順番で起こったのかを確認できます。

3

本文・図版

十分な文字量を確保し、平易な表現を用いて、生徒の読み取りを支援しました。

丁寧な記述で学習を助ける

4



学習課題に対応し、本文ページの学習を確かにする問いを示しています。学習の最後に取り組むことができます。

1時間の学習をふり返る

評価

指導と評価の一体化

知識・技能、思考・判断・表現

「確認」は知識・技能、「表現」は思考・判断・表現に対応しており、評価に活用していただくこともできます。

1 法隆寺 (奈良県斑鳩町) 7世紀後半に火災にあい、再建されました。中門・金堂・五重塔・回廊は、現存する世界最古の木造建築です。 **世界遺産**

2 聖徳太子 (574～622) と伝えられる肖像画 (奈良国立博物館蔵)

3 十七条の憲法 一に曰く、和をもって貴しとなし、さからうことなきを宗となせ。(和を尊び、争いをやめよ) 二に曰く、あつく三室を尊え。三室とは仏法僧なり。(仏教を信仰せよ) 三に曰く、詔を承りては、必ず謹め。(天皇の命令には従え) (一部読み下し文)

リンク 聖徳太子は、どのような政治をめざしたのかな。

5 聖徳太子と飛鳥文化 -巨大帝国と向き合いながら-

学習課題 蘇我氏と聖徳太子は、どのような国づくりを進めたのでしょうか。

見方・考え方 比較 国づくりを進めた聖徳太子の政治や外交方針に着目しましょう。

遣隋使の手紙と隋の皇帝 607年に、倭国王が使者を遣わして朝貢してきた。その手紙のなかには「太陽の昇るところの天子が、太陽の沈むところの天子に手紙を送ります」と書かれていた。隋の皇帝はこれを見て不快に思い、「今後、野蛮な国からの手紙で無礼なものがあれば、二度と私にとりつくな」と語った。(隋書) 倭国伝から一部要約

注 推古天皇は最初の女性の天皇です。飛鳥時代から奈良時代にかけて、多くの女性の天皇が誕生しました(=P.57古代の女性)。
 ② 厩戸皇子は、死後に聖人として尊敬され、聖徳太子とよばれるようになりました。

第2節の問い 日本列島ではどのように社会がまとまり、国家が形づくられていったのでしょうか。

歴史 + α 見開きの学習内容を掘り下げて、歴史を楽しく学び、学習内容の理解を深めていくことができるコラムです。

スキル UP 系図の読み取り方

系図は、祖先と子孫などの関係を線で記したものです。右の系図の場合、上下線は親子関係、左右線は兄弟姉妹関係、二重線は婚姻関係をあらわします。この系図は、蘇我氏と天皇家との関係を記しています。

資料活用 聖徳太子と蘇我氏は、それぞれの天皇とどのような関係だったのか、系図から読み取りましょう。

年	できごと
6世紀中ごろ	百濟から仏教が伝わる
587	蘇我氏が物部氏をほろぼす
589	隋が中国を統一する
593	聖徳太子が政治に参加する
603	冠位十二階が定められる
604	十七条の憲法が定められる
607	小野妹子が隋に派遣される(遣隋使)
618	隋がほろび、唐がおこる

6-7世紀初めの日本と東アジアの動き

ことが多かったため、飛鳥時代とよばれています。

飛鳥文化 6世紀の中ごろ、百濟から仏教が伝えられた。蘇我氏は早くから仏教を信じ、日本初の本格的な寺院である飛鳥寺を建てました。また、7世紀初めには、聖徳太子が斑鳩(奈良県)に法隆寺、難波(大阪市)に西天王寺を建て、仏教をあつく信仰しました。法隆寺の五重塔・金堂などは現存する世界最古の木造建築で、釈迦三尊像や玉虫厨子はこの時代代表的な美術作品です。寺院の建設や仏像の製作には、主として来人があたりました。

このころの仏教は、高度な思想が理解されたというよりも、病を治したり、先祖の冥福を祈ったりする新しい宗教と考えられていきました。大和とその周辺地域の豪族たちも、しだいに仏教を受け入れていき、それまでの古墳に代わって、自分たちの権威のシンボルとして寺院を建てました。

飛鳥時代に栄えた、仏教を中心とする文化を飛鳥文化といいますが、7世紀初めまでは、主に南北朝時代の中国の文化が、朝鮮諸国を通じて伝えられました。遠くインドやギリシャの文化の影響もみられます。やがて、留学生や留学僧が唐から帰国してくると、唐の文化の影響が強くなっていきました。

注 飛鳥時代に栄えた、仏教を中心とする文化を飛鳥文化といいますが、7世紀初めまでは、主に南北朝時代の中国の文化が、朝鮮諸国を通じて伝えられました。遠くインドやギリシャの文化の影響もみられます。やがて、留学生や留学僧が唐から帰国してくると、唐の文化の影響が強くなっていきました。

系図

飛鳥時代の日本の仏像 (左:赤銅菩薩半跏坐像 高さ125cm 京都市 法隆寺蔵) (右:聖徳太子の坐像 高さ93.5cm 天龍山 国立中央博物館蔵)

① 仏教が伝わったころ、仏像は、外国の神ととらえられていました。

確認 聖徳太子の業績や当時の文化を、本文や資料から書き出しましょう。

表現 蘇我氏と聖徳太子は、なぜこのような国づくりを行ったのか説明しましょう。

連携コーナー 主に小学校の学習や地理・公民とのつながりを示しています。

時代・世紀のスケール 学習している時代や世紀を、前後の時代も含めて常に確認できます。

見方・考え方を働かせた学習を実現する工夫

第1編では、「**歴史的な見方・考え方**」とは何かを、その活用の仕方とともにわかりやすく解説しています。第2編以降の学習では、「歴史的な見方・考え方」を問いの解決の道しるべとしながら学習を進める**一貫した構成**になっています。

歴史学習のはじめに「歴史的な見方・考え方」を丁寧に

歴史学習の導入部にあたる第1編「私たちと歴史」第1節「歴史のとらえ方」では、**小学校で学んだヒト・モノ・コトを生かした活動**を通じて、「歴史的な見方・考え方」を働かせた学習の仕方を学ぶことができます。

注目! **活動を通して「歴史的な見方・考え方」を学ぶ**

教科書の紙面上部では、「歴史的な見方・考え方」を体験的に学ぶことができる活動「**トライ**」を提案しています。



ゲームをはじめとする活動を通して、生徒が興味・関心をもちながら「歴史的な見方・考え方」を学ぶことができるような紙面にしました。

注目! **「歴史的な見方・考え方」をわかりやすく**

「歴史的な見方・考え方」を、「時系列」「推移」「比較」「つながり」の4つの視点や方法に整理して丁寧に解説しています。

① トライ 歴史的な見方・考え方を使ってほかの人物や文化財、できごととの関係を考えよう

STEP 1 P.8~9のゲームで使ったカードにえがかれた人物や文化財、できごとと関係があると思うカードを採りましょう。その際、右の例のふき出しに示されたような視点に着目すると、つながれるカードは変わるか試してみましょう。

うら

1378年 足利義満が室町に幕府を移す

1397年 足利義満が金閣を建てる

1994年 世界遺産に

金閣はいつの時代に建てられたのかな。

ほかのカードのおもて

時系列 **おもて** **推移** **引きついでいる部分はどこかな。**

ほかのカードのおもて

比較

銀閣との共通点やちがいはあるかな。

つながり

金閣はどうしてつくられたのかな。

ほかのカードのおもて

STEP 2 **STEP 1** で考えたことをもとに、自分が持っているカードに示された人物や文化財、できごとについて、誰かに分かれて説明し合ひましょう。また、その人物や文化財、できごとがどのような特色をもっているか自分なりの考えを発表しましょう。

スキル UP **相手に伝える説明のしかた**

自分の考えを説明するときは、どのような説明をすれば、聞いている人が理解しやすいのか、考えるようにしましょう。何を言いたいのか、ポイントを最初に説明して、気づいたことだけでなく、その理由などを付け加えて話しましょう。

私は、金閣について考えてみました。金閣は室町幕府3代将軍足利義満が、出家した後、別荘として1397年に建てました。一番下は寝殿造、一番上は禅宗様という建築様式が用いられています。公家と武家の文化が組み合わされているのが特色だと思いました。

まどかさんは、歴史に関わる人物・文化財・できごとのうち、文化財について考えていますね。人物を取り上げた人はいますか。

私は、源頼朝について考えてみました。1180年に源平の内乱が起こり、1185年に源氏が平氏をほろぼしました。1192年に頼朝は、武士の総大将として征夷大将軍に任命された。こうして鎌倉幕府が成立しました。頼朝は、権力をにぎっただけではなく、朝廷の貴族とはちがう新しい政治を始めた点で時代を大きく変えた人物であるといえると思います。

② 「歴史的な見方・考え方」とは？

学習課題 歴史事象(人物・文化財・できごと)の関連や特色をとらえるには、どうしたらよいのでしょうか。

歴史的な見方・考え方 この教科書では、時系列・推移・比較・つながりといった四つの視点や方法を使って学習を進めています。これらは、「歴史的な見方・考え方」とよばれるものです。歴史を考察し、理解するための手立ての一つとして、活用していきましょう。

時系列

歴史には時間の流れがあります。それぞれのできごとが、どの時期にどんな順序で起こったかに着目して「時系列」でとらえることは、歴史学習の基本として大切なことです。

いつの人物/文化財かな。

推移

ものごとは、時とともに移り変わっていきます。この移り変わりのことを「推移」といいます。推移に着目すると、ものごとがどのように変化したか、あるいは変わることなく継続したのかなどに気づくことができます。

どのように展開、変化、継続していったのかな。

比較

二つ以上のものを比べることを「比較」といいます。ものごとどうしを比較して、たがいのちがいや似ている点に着目すると、それぞれの特色を明らかにすることができます。

異なる点、共通点、特色は何か。

つながり

歴史上のできごとは、たがいにつながり合っています。「つながり」に着目することで、あるできごとの背景や原因、結果や影響などを考えていくことができます。また、現在の「つながり」に着目すると、過去の歴史上のできごとと現代の私たちや生活のかかわりに気づくことができます。

どのような影響をおよぼしたかな。

各時代の学習で一貫した「見方・考え方」の活用

第2～6編の通史学習では、導入ページ、本文ページ、まとめ・ふり返しページのそれぞれで働かせる主な「歴史的な見方・考え方」の例を示しています。各時代で「歴史的な見方・考え方」を働かせた学習を繰り返すことで、生徒の主体的・対話的で深い学びの支援を図りました。

導入ページ

トライ 年表から「近代(前半)」という時代を見通そう

●見方・考え方
時系列 推移

年表を読み取り、話し合ひましょう。

- ・小学校で学んだ人物は、いつぐらいに登場しているか。
- ・政治、社会、外交、文化の面で、いつ、どのようなことが起こっているか。
- ・世界ではどのようなことが起こっているか。

P.156 第5編第1章 学習のはじめに「トライ」

本文ページ

学習課題 なぜ、日本はこの時期に条約改正を実現することができたのでしょうか。

●見方・考え方 **つながり**

日本が条約改正に成功した時期と、東アジアをめぐる列強の動きに着目しましょう。

P.196 第5編第1章第5節 ①列強の動向とアジア「学習課題」と「見方・考え方」

まとめ・ふり返しページ

「近代(前半)」の特色をさぐる

「近代(前半)」にはどのような特色があるか考えましよう。

●見方・考え方 **つながり**

P.213 第5編第1章 まとめとふり返し「近代(前半)」の特色をさぐる